

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200912		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム本郷		
所在地	山口県岩国市本郷町本郷2086番地		
自己評価作成日	令和3年12月30日	評価結果市町受理日	令和4年5月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は山間部の町、本郷にあります。高齢化が進んでいる地域ですが、祭りなどの行事が盛んに行われる伝統ある町です。例年ご入居者にも積極的に参加させていただき地域とともに過ごしていましたが、本年度は新型コロナの影響により祭りも中止となり、社会交流の少ない自粛生活を過ごしていただく1年となりました。施設では、食事の準備や掃除・洗濯などを職員とご利用者が協力して行うなどして生活をされています。この1年は買い物等も自粛しており、周辺の散歩や公園へのドライブ等で気分転換を図ってまいりました。また田舎のため畑があり、畑仕事ができるご利用者は芋や豆などを栽培して過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナ感染予防のため、地域や事業所の行事や外出の機会が減少する中、職員は、利用者と一緒に郵便局へ手紙を出しに行かれたり、地元商店街へ日用品の買い物に出かけられたり、道の駅やドライブインでおやつを購入を楽しんでおられるなど、出来るだけ外出の機会をつくられて、利用者が気分転換を図れるよう工夫されながら、支援されています。事業所の畑で利用者と一緒に収穫された野菜(玉ネギ、芋、柿等)を食材として活用され、利用者と職員と一緒に調理されて食事をしておられるなど、利用者一人ひとりの活躍できる場づくりを支援されています。評価項目を基にした「日めくりカレンダー」を作成され、職員一人ひとりが日々確認されることで、評価の意義を理解され、日常のケアの中での振り返りや気づきを促されて、課題の改善に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己評価の主たる項目を日めくりカレンダーとし、日常的に求められている支援が何かを感じられるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、自己評価項目を基にした「日めくりカレンダー」を作成し、職員一人ひとりが日々確認することで、理念の実現に向けたケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、集会、イベントに積極的にご利用者の参加を促すとともに、職員の地域ボランティアに参加などをしていたが、近年は新型コロナウイルスの影響で自粛としている。	例年であれば、地域の季節行事や各学校との運動会、隣接の老人施設主催の年間行事や来訪するボランティアとの交流があるが、今年度は、コロナ禍で殆どが中止となっている。近隣の保育園児の散歩コースになっており、園児と挨拶を交わしたり、園児が作った手作りの作品（サンタ人形、松ぼっくのツリー他）を持っての来訪があり、感染予防のため窓越しでの対面をしている。利用者と一緒に郵便局へ手紙を出しに行ったり、地元商店街へ日用品の買い物に出かけたり、散歩など、頻度は減少したが、工夫して気分転換に外出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年地域の集会に参加したり運営推進会議を通じ、理解を深めていたが、近年は自粛により成果の実感は無い。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価で足りない事、改善できる点を再認識し、職員間で業務の改善に取り組んでいる。また、外部評価の指摘は新鮮な指摘が多く、改善に役立っている。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、評価項目を「日めくりカレンダー」にして項目の理解ができるように工夫している。各ユニットごとに職員の意見を聞き集約したものを管理者がまとめている。課題の改善や目標達成計画への取り組みについては、コロナ感染状況を考慮しながら、できるところから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年運営推進会議を通じ、地域サロン等の参加や職員のボランティア等をすすめていたが、近年は新型コロナ対策の意見交換がほとんどであった。	会議は2ヶ月に1回開催している。内4回は新型コロナウイルス感染予防対策のため文書で開催し、会議のメンバーに資料・報告書(利用者の状況、行事予定と報告、ヒヤリハット・事故報告、事業所の取り組み、職員の状況)を送付して、意見交換をしている。会議開催時は、新たなメンバーに事業所を案内している。地域包括支援センターからは、感染症予防対策に関する情報や資料の提供があるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員に本郷支所の職員になって頂いており、気軽に相談できる体制は整っている。	市担当者とは、更新の手続きや相談に直接出向いて、助言を得ている他、電話やFAX、メールで情報を得たり、地域密着型サービス事業者連絡会議時に情報交換するなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や地域ケア会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会において3ヶ月に1回話し合いの場を設けると共に、年2回身体拘束についての勉強会を行っている。出入口の施錠に関しては、オートロック式となっておりご利用者の外出の要望時に開錠している。	職員は、年2回内部研修で身体拘束について学ぶと共に、年4回身体拘束適正化委員会を開催して職員間で話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、職員間で注意したり、管理者が指導している。玄関はオートロックとなっているが、外出したい利用者がいれば職員と一緒に出かけるなど、閉塞感を持たない環境づくりに努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を4月に1度開催し、知見を深めている。また職員の言動が威圧的暴力的ではないか常に気を配り、虐待防止や早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内勉強会により、職員に基本的な知識を共有するとともに、ご利用者のご家族からの相談には共同して問題解決を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を心がけ、納得の上契約していただくとともに、疑問点があれば相談に乗り理解をして頂いている。また改定等あれば、その都度説明を行い同意書に記入して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時に苦情処理に関する事を十分に説明し理解して頂くとともに、そこに至らぬよう日ごろから疑問や要望を受け付けて、誠意を持って対応を行っている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。面会時や運営推進会議時、電話などで家族からの意見や要望を聞いている。毎月の事業所だよりに加えて、管理者からの挨拶や担当職員が書いた利用者の近況報告とスナップ写真を一緒に送り、家族が意見や要望を出しやすい環境づくりに努めている。家族からの要望や意見は、管理日誌・苦情相談受付簿・業務日誌に記録し、職員間で共有して対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各職員が主体的に行動ができるよう、適宜提案を受け付け、その場で判断することで、迅速かつ主体的な行動ができるよう配慮している。	管理者は、月1回の職員会議や毎日の申し送り時、年1回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員からは業務の改善や勤務体制の変更の相談、備品購入などの意見や提案があり、その都度職員間で話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はサービス残業の禁止、有給の積極的利用、外国人実習生の受け入れ等による人員不足の解消など労働環境の向上に注力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	例年積極的に法人外研修に職員を派遣し ていたが、現在は新型コロナの影響で実績 が無い。(予定あり) 法人内の研修はオンライン化が進み、多岐 にわたる研修が実施されている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段 階に応じて勤務の一環として参加の機会を提 供しているが、今年度は新型コロナの影響で 参加を見合わせている。法人研修は、年5回 オンラインでの研修に8名が参加している。内 部研修は、計画的に月1回、感染予防対策・ 身体拘束廃止・個人情報保護とクレーム対 応・認知症の理解と接遇・事故発生防止と緊 急対応・災害対策・高齢者虐待防止・介護技 術の向上・権利擁護と後見人制度・介護理念 他の研修を行っている。新人研修は、法人が 受講希望者にオンライン研修を行い、日常の 業務の中でも指導をして、働きながら学べるよ うに支援している。資格習得の支援をしてい る。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	岩国市地域密着型事業所連絡協議会や地 域公益活動推進協議会に参加しており、例 年さまざまな事業所との交流と研鑽をしてい るが、近年は中止もしくはオンラインによる意 見交換となっている。。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、それまでの担当ケアマネー ジャーにこれまでの生活や要望を聞き、不安 なく共同生活を始まるよう受け入れ体制を 整えている。			
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	契約時に十分な相談と要望を聞くことで、信 頼関係を早急に構築し、円滑にサービスを 利用開始できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅での生活が無理なのか、ご本人ご家族及び居宅支援事業所の担当ケアマネジャーから情報を集め、必要時は在宅復帰の目標をご本人やご家族と共有している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者が自立して生活できるよう支援することを心がけている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンライン面会の推進や窓越しでの面会、電話等を活用し、コロナ禍においても家族との絆が途切れぬよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で積極的な関係継続支援が非常に困難な状況にある。オンライン面会や電話、戸外での面会などで家族・親戚との繋がりが変わらぬよう支援した。	コロナ禍により、家族と親族以外の面会は制限をしており、窓越しやオンライン等に対応している。利用者の希望に応じて、手紙や電話をかける等の支援をしている。感染状況によっては、家族の協力を得ての一時帰宅はあるが、外泊や、法事、墓参等は制限をして、見合わせている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、それぞれが孤立する事やストレスを感じる事の無いように配慮し、また職員の働きかけにより協力しながら生活できる様に人間関係の維持向上を図っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族や転所先の関係者に必要時は連絡をとり、退所後の新しい生活を円滑に送れるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から話を伺える場合はしっかりと傾聴し、難しい場合は家族にセンター方式を記入頂き、そこから本人の意向や思いの理解に努めている。	入居時のセンター方式のシートやアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の状況や言動を介護記録(電子カルテ)に記録して、思いや意向の把握に努めている。記録は管理日誌にも連動しており、職員間で情報の共有ができています。困難な場合は、家族からの情報を元に職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段から、本人様に何うと共に、ご家族や面会時に来られた親族や友人から昔話をお伺いするなどして把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員各々が毎日の状態や気付きを記録し、それを申し送る事で全職員が共通して把握し、変化等にいち早く気付けるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当や利用者の担当者が中心となり、関係者と連携を取ってプランを立案、作成している。	計画作成担当者と担当職員が中心になってカンファレンスを開催し、利用者や家族の意向、主治医、薬剤師、管理栄養士の意見や他の職員の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、3ヵ月毎に計画の見直しをしている。利用者の状態が変化した場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテにて個別に記録されており、職員間で情報を共有して、その時必要な対応をとっている。朝夕の申し送り時の議論や日常の職員間の会話の中からプランの見直しに役立つ事も多い。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特色がある個別支援の計画を作成し、個々の生活に反映できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍においてあらゆる地域資源が失われた感がある。地域の状況を踏まえつつ関係性を再構築していきたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族の希望でかかりつけ医を決めている。基本は協力病院以外の受診は家族対応と説明しているが、本人のADL等で家族だけの受診対応が困難な時は、職員が同行支援している。	事業所の協力医療機関の他、利用者、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月2回の訪問診療があり、その他の医療機関の受診については、月1回の定期受診がある。受診結果は家族に電話で報告している。他科受診は、家族の協力を得て、事業所が支援している。夜間や緊急時は、管理者を通じて、併設施設の看護師の協力や当直職員の支援を得たり、協力医療機関の指示を仰いで、適切な医療が受けられる様に支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護の協力が必要な場合は併設の特別養護老人ホームの看護師に相談し、必要に応じて処置や受診指示を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	円滑に入退院が可能ないように医療関係者との連携に努めている。かかりつけ医の山口平成病院の他、最も近い総合病院である美和病院とは関係を強く持つように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては事業所に対応できる範囲を十分に家族に説明した上で理解頂き方針を共有している。終末期においては現在当事業所ではみどり対応は難しい為、家族及び医療機関関係者とその都度協議している。	契約時に、重度化した場合に事業所ができる対応について、利用者と家族に説明している。実際に重度化した場合は、本人や家族の意向を踏まえた上でかかりつけ医と相談して、他の福祉施設や医療機関への移設を含めて方針を決め、全職員で共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書をもとに、毎月の事故検討委員会で話し合い、再発防止に努めている。事故発生時の対応について事業所内の勉強会で話し合っている。	事故発生時は、対応した職員がインシデント・アクシデントレポートに記録し、全職員に回覧し、翌日の申し送りで伝達して職員間で共有している。各ユニットごとに、月1回の事故検討委員会で再度話し合い、再発防止に取り組んでいる。事故対応については、「救急搬送対応マニュアル」「事故発生時のマニュアル」を整備し、事故発生時の対応・転倒、転落対策などの勉強会も行っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当、初期対応の実践力を身に付けるための定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と年1回の災害避難訓練を実施している。訓練時に地域との協力を推進していきたいが、コロナの影響を鑑み今しばらく自粛中。	併設施設と合同で、年1回(消防署の協力を得て)夜間想定火災訓練を実施し、通報、避難、消火訓練を利用者も参加して行っており、運営推進会議で報告を行い意見交換もしている。災害時に備えて、併設施設で飲料水、食糧、介護用品等準備しており、「地域支えあい会議」の中で、事業所を地域の災害時の避難場所として提案している。自治会長や民生委員の協力を得て、緊急連絡網を作成しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの言葉使いにならないように、また家庭的な雰囲気をなくさないように穏やかな対応を心がけている。	職員は内部研修(個人情報保護・プライバシー保護・接遇マナー・介護スタッフに求められる倫理)で学び、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は、職員間で注意し合ったり、管理者が指導している。個人記録は電子カルテによって管理し、職員には守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせ、思いや希望を表現できる方はしっかり働きかけ、言葉にすることが難しい方は選択式にしたり、「はい」「いいえ」で決定して頂くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の体調や期限なども勘案し、無理なく生活が出来るように本人様の声掛けを行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容室からの訪問理美容サービスでのヘアカット、不定期で行われるメイクサービスなどで美の心を忘れない環境を作っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けなどは、ご利用者と職員と一緒にに行くなどして、食事が主体的になる様に心がけている。	食事は法人の厨房からの配食を利用し、ご飯、汁物、デザート類は事業所で調理している。献立は法人の管理栄養士がたて、年1回アンケートを実施して利用者の好みや要望を聞いている。畑で採れる玉ネギ、芋、柿などを食材に利用している。利用者は、野菜の皮むき等の下ごしらえ、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食事で一緒にテーブルを囲んで会話を楽しみながら食べている。利用者の状態に合わせて、きざみやトロミ食にするなど、食事形態に配慮している。季節の行事食(正月のおせち料理、鍋料理、ソウメン流し、餅つき、クリスマスの手作りケーキ)や、おやつ作り(ホットケーキ、おはぎ、月見団子、あん餅、ぜんざい)を楽しんだり、道の駅やドライブインでの軽食、カップ麺でのラーメン祭りなど、食べることを楽しむ機会を工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録し、定期的に栄養スクリーニングを実施している。ヴィラ本郷栄養士に相談しながら、食事量や水分摂取量の低下等見られれば、情報を共有し対応している。咀嚼や嚥下に問題がある方は、それぞれに合った食形態での提供としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持を行い、また異変が見つかった際は本郷歯科への受診介助を行い口腔の健康を維持している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録から排泄リズムの把握に努め、個々にあったタイミングでの排泄支援を行っている。排泄が難しい状態になっても安易な紙オムツの使用はせず、なるべく紙パンツを使用しトイレでの排泄を援助している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを「排泄記録表」を活用しながら把握し、一人ひとりに応じた声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行して運動して頂く事や、便秘に良いとされている物の活用、また腹部のマッサージなどにより自然排便が出来るように心がけており、安易な下剤利用は避けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は2日に一度の入浴となっているが、希望される方には都合がつけば入浴予定ではなくても入って頂いて喜んで頂いている。	入浴は毎日、10時から11時30分の間と14時から16時までの間可能で、2日に1回は入浴できるように支援して。希望があれば夜間の入浴にも対応している。体調に応じて、シャワー浴や部分浴、清拭、柚子湯や晩白柚の湯、入浴剤を楽しんでいる。入浴したくない利用者には、時間をずらしたり、人を変えて対応するなど、無理強いをしないように工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるように、日中は活動的に過ごされるように心がけている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤管理指導を受けることで薬剤師からの支援があり、薬の理解等を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や屋内でのレクやイベント、また畑仕事など個々にあった趣味を反映しながら生き生きと生活できるように、また楽しく生活できるように心がけている。	テレビ(時代劇、相撲、野球、歌番組)やDVD(歌番組)の視聴、新聞、雑誌の購読、広告チラシ、貼り絵、ぬり絵、手芸作品作り、季節の作品作り、折り紙、習字、漢字、計算、ミニ運動会、ラジオ体操、太極拳、ボール遊び、風船バレー、歌、カラオケなどを楽しみ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、モップかけ、手すり拭き、カーテンの開閉、苗植えや野菜の収穫、鉢植えの水やり、食事の準備(野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、盆拭き、下膳、食器洗い)など、一人ひとりの活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在希望があっても濃厚接触になりえる環境や人混みへの外出は控えている状況だが、出来る限り本人のストレスにならないよう、近隣の散歩や人混みを避けてのドライブ等に努めている。またご家族との外出や外泊においても感染状況を鑑みた上で実施している。	コロナ禍により、外出の頻度は減少したが、近隣への散歩、郵便局やごみ捨てを職員と一緒に出かける等、日常的に行っている。花見(桜、菜の花、紫陽花、紅葉狩り)、初詣、道の駅やドライブインでおやつや購入、地元商店街への日用品の買い物等、出来るだけ外出の機会を作り、気分転換を図れるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はなるべく自由に預り金を使って買い物出来るように支援している。ただし、本年度はコロナの影響で外出そのものが減っている状況である。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があれば自由に利用して頂いている。また、年賀や暑中見舞いをご家族宛てに出して頂くなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光には特に注意し、利用者が不穏な気持ちにならぬよう気をつけている。季節に応じた飾りつけなどにより変化や季節感を取り入れている。	玄関には季節の花を飾っている。食堂兼リビングは明るく、大きな窓からは山々に囲まれた自然の様子が眺められる。テーブルとイス、ソファ、大型テレビが置いてあり、利用者がゆったりとくつろげる場所になっている。廊下には長脚ソファが置いてあり、利用者同士のおしゃべりの場となっている。壁には季節の作品や習字、行事のスナップ写真などが飾っている。室内には加湿器があり、温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音や光には特に注意し、利用者が不穏な気持ちにならぬよう気をつけている。季節に応じた飾りつけなどにより変化や季節感を取り入れている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ストーブなど安全性に不安のあるものは遠慮して頂いているが、自宅からの家具などの持ち込みにより馴染みのある生活が出来るように心がけている。	居室には、テレビ・衣装ケース・ハンガーラック・タンス・机・椅子・時計・仏壇・整容道具・ゴミ箱等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや家族写真・運動会の表彰状などを飾って、利用者が馴染みの物に囲まれ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部は歩行器や福祉用具を安全に利用できるよう配慮し自立して動いて頂ける様に環境整備を行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム本郷

作成日: 令和 4 年 5 月 23 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	ここ数年運営推進会議の開催は人数を絞ったり、照会による実施だったり、地域の人との生の声での意見交換が少ない。その影響で、地域の状況が分かりづらい状況となっている。	新型コロナウイルスの状況に左右されるものの、年6回の運営推進会議のすべてにおいて地元の委員をお招きし、有意義な意見交換を行い、ご入居者様のサービス向上に役立てると共に、地域との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・全会議において、地域の委員を招集。 ・地域のイベント情報の収集と参加。 ・地域のボランティア情報の収集と参加。 ・構成員を地元本郷に限定せず、玖北地域全域に広げ、玖北唯一のグループホームである当施設の認知度向上を図る。 	12ヶ月
2	36	消防訓練時における近隣関係者の協力体制を築くという目標が何年も前からあったが、コロナ禍の影響で行動に二の足を踏み続けてしまっている。	消防訓練時に周辺施設等の参加を要請し、より関係性を深めることで、万一の状況時に迅速な協力がとれるようにするとともに、平素からの交流の活性化に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設(松風荘等)や近隣住民に当施設の訓練に立ち会って頂くような関係となる。 ・また、要望があれば近隣施設の訓練に当施設の職員派遣も行う。 	12ヶ月
3	21	オンライン面会や外での面会など、感染防止対策の上でのご利用者ご家族の面会となっているため、ご家族とゆっくり過ごすという事がなかなかできていない。とはいえ面会が原因で濃厚接触者となるような事がおきれば大変なこととなる。	ご利用者ご家族が、居室内や自宅でゆっくりと穏やかに過ごすことができる環境にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会状況、他施設の状況、国や法人の指針等に常に気を配り、その都度最良の対策案をご利用者ご家族に提示。 ・ご家族からの要望も逐一収集し、要望を確認しつつその時点で提供可能なサービスを考案。 	12ヶ月
4	35	事故発生時の備えとして、年に1度心臓マッサージ訓練を行っているが、言い換えれば心臓マッサージ以外の訓練は行っていない。	大量の出血時や骨折を疑われる状況、食事を詰まらせた時など、多様な訓練をすることで、実際の事故発生時にどの職員でも冷静且つ迅速に最善の対応ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練の多様化。 ・職員が興味深く訓練に取り組めるような訓練内容の準備。 	12ヶ月
5		BCP事業継続計画に関する職員理解の希薄	BCP事業継続計画を全職員が認識し、万一の事態発生時は混乱なく迅速に対応できる組織を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修によるBCPの必要性の理解 ・研修と訓練によるBCPの理解 	12ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。